

堀井伸浩（ほりいのぶひろ）

1996年に慶應義塾大学大学院修士課程を終了後、アジア経済研究所に入所。以来、中国の石炭産業の分析に3年ほど専念。その後、中国清華大学の技術経済エネルギーシステム分析研究院（現在はエネルギー環境経済研究院に改組）に約2年半、客員研究員として滞在。その間、電力産業も守備範囲に。中国のエネルギー問題に関する従来の研究、すなわちマクロ統計を用いて主として需給分析を行う研究などと比較すると、よりミクロレベルなケーススタディを用いることで、実際にどのような企業がどのような制度の下、どのような経営状況でエネルギーを生産しているかという視点からの分析に独自性があると自己評価している。2002年3月の帰国後は、環境問題の研究会に参加し、石炭流通の実態を踏まえた具体的な政策提言を含む研究成果、あるいは中国における排煙脱硫装置の普及の事実とその背景に関わる分析を発表してきた。最近是中国の風力発電設備メーカーの成長に関する企業調査などを調査し始めている。

学 歴

1994年3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業

1996年3月 慶應義塾大学法学研究科前期博士課程（修士課程）修了

職 歴

1996年4月 アジア経済研究所研究員

2006年4月 日本貿易振興機構アジア経済研究所副主任研究員

2007年4月 九州大学経済学研究院准教授（現在に至る）

客員研究員等

中国清華大学技術・経済エネルギーシステム分析研究院客員研究員（1999年8月23日～2002年3月31日）を始め、他に、世界銀行短期コンサルタント、国際協力銀行エネルギー経済専門家、朝日新聞社アジアネットワーク（AAN）客員研究員、国際エネルギー機関（International Energy Agency）コンサルタント、東京大学社会科学研究所・客員准教授、総合資源エネルギー調査会臨時委員、東京大学社会科学研究所・非常勤講師などを歴任。

以上